令和６年度　第２回清川村総合教育会議録

日　　時　令和６年 12 月 18 日（水）午前９時 00 分から 10 時 30 分まで
場　　所　本庁舎４階　住民センター集会室
出席委員　岩澤吉美村長、山田一夫教育長、今野郁夫職務代理者
　　橋本直人委員、山田比呂美委員、小室美和委員
事 務 局　小野参事兼指導主事、相原学校教育課長、中澤生涯学習課長
　　岩澤副課長、奥脇指導主事
　　子育て健康福祉課　天利課長、井上主幹

議事日程
１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
（１）前回議事録の確認
（２）学校教育の運営状況について
（３）生涯学習の実施状況について
（４）その他
４　次回の会議日程
５　閉　　会

開会（午前９時 00 分）
村長あいさつ
おはようございます。本年度２回目の総合教育会議です。今日も日中は暖かく、朝夕は冷え込みも激しい中ではあります。降雨量もゼロという日が続いており、空気も乾燥していて、他の学校ではインフルエンザによる学校閉鎖が出たという事もありました。また、リンゴ病も流行っていて、コロナ感染者も出ているという状況であります。こういった中、児童生徒はもとより、村民の皆様には健康に留意していただきたいと願うばかりです。先週 13 日に 12 月定例議会を閉会したところですが、一般質問では２名の議員から教育関係の質問をいただいて、少人数教育に関しての課題や一貫校の施設での安全性や質の高い教育の保証、他の自治体への問いかけもありました。このような課題につきましても、解決に向けて進め、併せて一貫校事業も進めてまいりたいと思います。これからも皆様の声を大切にしながら、教育委員の皆様とも情報を共有させていただき、子育ての分野におきましても、健やかに育ち夢や希望が持てる村づくりに向け、地域と一体となった教育の充実、清川らしい幼小中一貫校の教育環境の整備を進めていくとともに、文化芸術の振興、生涯学習におきましてもしっかりと取

り組んでいきたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましても引き続き、ご指導ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

教育長あいさつ

おはようございます。いよいよ二学期の学校行事等も終わり、３年生の生徒は、進路に向かって進んでいると思います。９月 27 日と 28 日に一貫校の説明会を保護者及び住民を対象に開催しました。また、住民懇談会として村長と同行させていただき、10 回にわたり各地域と懇談を行いました。その中で幼小中一貫校の説明を行ったのですが、保育園はどのようにするのかという意見を多くいただきました。また、10 月 10 日 11 日にかけて、緑小の児童が宮ヶ瀬小学校で、野外活動、キャンプを行いました。その時にコミュニティースクールの皆さんや地域の方々にお手伝いをしていただき児童たちをバックアップしていただきました。大変ありがたいと思いました。生涯学習の方では 10 月から 12 月に様々な事業があり、やまびこマラソン、村文化祭、芸能発表会、12 月７日には青少年指導員がしめ縄づくりを行い、24 組の参加があり盛況に行われました。学校を中心に、地域の核となれるように関係者の皆様のご協力のもと連携を深めて色々と取り組んでいただいて大変感謝しています。今後もより良い学校生活を送れるようにバックアップしていただけるとありがたく思います。

議題（１）前回会議録の確認

◎事務局から「資料１」により説明を行い、前回会議録（Ｒ６．８．２６）の確認をしました

議題（２）　学校教育の運営状況について

事務局　幼小中一貫校建設に係るスケジュール説明

現在、基本計画策定業務を進めているところですが、本業務に保育園も含めた調査研究をすることとし、これに伴い、基本計画策定業務の業務期間を令和７年３月まで延長させていただき基本計画案をまとめていきます。その後は、パブリックコメント等実施していく予定です。

一貫校の教育内容に関しては、清川村幼小中一貫校教育推進部会で進め、メンバーは各園、各校の主任、総括教諭、副園長、教頭となっています。

委　員　地域と学校で共同して村を盛り上げていくので、メンバーとして固定した形でなく、少し枠を広げて柔軟な形で運営できれば良いと思います。

事務局　前向きに検討します。

議　長　少し間口を広げていただければと思います。子ども優先で考えていきたいと思います。

議題（３）生涯学習の実施状況について

事務局　・はたちの集い開催について
　　・煤ケ谷地区体育祭について
　　・清川やまびこマラソンについて
　　・清川村文化祭、作品展、芸能発表会について
　　・しめ縄づくりについて

議題（４）その他

◎　地域人材の活用や幼少中一貫校の利点を生かした教育活動について、部活動について、学習端末の個人情報の流出についての議論を行う。

委　員　保育園、幼稚園一緒に教育していくのが大事だと思う。同じ空間で育てていくのが親の願いです。

委　員　保育士と幼稚園教員はそれぞれ専門性がある。スペシャリストがそれぞれ子ども達に一緒に教えるには難題があり、発達状況に応じた教育が必要だと思う。

委　員　村の人口が減っている中、保育園を０から２歳、幼稚園を３歳からに分けて役割を分けるのも良いと思う。

議　長　保育園は昼寝があり、幼稚園との住み分けが難しいと考える。違う制度の中で一緒に運営は難しい。工夫しながら交流をしていければと思う。それぞれが清川としての魅力を作っていき、人口増につながればと思う。

委　員　いろいろな要素があり、委員会として中身をこども園の幼稚園型こども園の保育園型、幼稚園と保育園別々型など様々なケースを考えたい。子ども達は同じ小学校に上がって来るので良いアイデアがないか委員会としても探っているところなので今後検討させてもらいたい。

議　長　村立村営の認定こども園、幼保連携型、幼稚園型認定こども園、保育所型認定こども園、地方採用型認定こども園など設置主体がそれぞれ違う。理想は一つの建物の中でやれれば良いのだけれど、現在、村ではうまく連携してやっていて、お互いに小学校に上がっている状態と認識しています。

次回の会議日程

◎令和７年２月２７日　午前９時から

閉会